

2023年度生 薬学部 薬学科 専攻科目

系列	授業科目	開講期 (必修◎/選択○/自由科目◇)						単位数	授業回数	授業形態 (コマ数)			ディプロマ・ポリシーに対する関与の程度							備考									
		1年次		2年次		3年次				4年次		5年次		6年次		講義	演習	実習	A		L	以外	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
		春	秋	春	秋	春	秋			春	秋	春	秋	春	秋														
専攻科目																													
臨床薬学科目	臨床薬剤学Ⅰ			◎					2	15	12	3							A-2		A-2	C-3	A-2						
	臨床薬剤学Ⅱ			◎					2	15	12	3							A-2		A-2	C-4	A-2						
	情報リテラシーと医療					◎			2	15	15										A-2		A-2						
	医療マネジメント					◎			2	15	14	1							B-3	A-3									
	セルフメディケーション学					◎			2	15	12	3							A-3		A-3	B-3							
	予防医学・セルフケア演習					◎			1	15		15							A-3		A-4	B-4							A-2
	個別化医療学					◎			2	15	14	1							A-3	B-3	A-3	C-4	A-2						
	地域医療学						◎			1	8	8							B-3										
臨床薬学					◎				1	8	7	1						A-2		A-2	C-4	A-2							
社会薬学科目	早期体験学習・銚子学	◎	◎						1	10	3	3	4					A-1	A-1		B-3		A-1	A-1					
	医療人の使命	◎							2	15	3	12						A-1	A-1		B-3								
	ヒューマニズム		◎						1	8		8						A-1	A-2		B-3								
	医療人のあり方				◎				1	8	4	4						A-1			B-4				A-1				
	多職種連携とプロフェッショナリズム					◎			1	8	8							A-1	A-2		B-4								
	グローバルコミュニケーション							◎		1	8	7	1					A-1	A-2		B-4								
	薬剤師の責務		◎						1	8	8							A-1		A-1	B-4							A-1	
	社会と医療経済					◎			1	8	8							A-2	B-2										
薬剤師と法律					◎			1	8	7		1					A-1		A-1	B-4							A-1		
キャリアアップ科目	キャリアプランニング					◎			1	15	10	5														B-4			
	医療専門職連携導入		◎						1	8	1	7							A-1								A-1		
	救命救助法入門		◎						1	8	8																	A-1	
	救急・災害薬学					◎			1	8	7	1																A-2	
	救急・災害時チーム医療演習						◎	◎		1	15	15																A-3	
	薬物乱用防止啓発活動							◇		1	15	4	9	2															
	化粧品学				◎					2	15	12	3								B-2		A-2						
	創薬科学				◎					2	15	12	3										A-2						
専門実習科目	薬学基礎実習		◎						1	15			15								A-1	B-1	C-1	A-1	A-1				
	物理・化学系薬学実習				◎				2	30			30								A-4	A-3	A-3						
	生命薬学・衛生薬学実習				◎				2	30			30							A-2	A-4	B-4	A-3	A-3					
	医療薬学実習				◎				2	30			30								B-2	C-4	A-3	A-3					
	事前実務実習					◎	◎		4	60			60						A-3	A-3					A-3				
総合科目	臨床病態解析学演習							◎	◎			1	15	15						A-3			A-3	B-3					
	薬局実務実習							◎	◎			10	150							A-4	A-4	A-4	A-4	B-4	C-4	A-3	A-3	A-3	
	病院実務実習							◎	◎			10	150							A-4	A-4	A-4	A-4	B-4	C-4	A-3	A-3	A-3	
	実務実習事後演習							◎				1	15	15						A-4	A-4	A-4	A-4	B-4	C-4	A-4	A-4	A-4	
	基礎薬学演習						◎			2	30		30										A-3	B-3	C-3				
	薬学特別演習Ⅰ							◎				2	30		30								A-4	B-4	C-4				
	薬学特別演習Ⅱ							◎				2	30		30								A-4	B-4	C-4				
	総合薬学演習							◎				1	15		15								A-4	B-4	C-4				
卒業研究					◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	4	60		30	30						A-4	B-4	C-4	A-4	B-4			

卒業要件 一般基礎科目 : 16単位以上
 専攻科目 : 170単位以上
 合計 : 186単位以上

※専攻科目の必修科目167単位すべて修得すること(専攻科目の選択科目を3単位以上修得)
 ※必修選択別: ◎…必修、○…選択、◇…自由
 ※自由科目は卒業進級有効単位に含めない。
 ※ALとは・・・アクティブ・ラーニングの略。

DP 1. 最適な医療の提案

科学的な思考、及び医療に携わる者としての倫理と使命感を背景とする薬学的知見に加え、医療政策や医療経済に配慮することで、少子高齢化や技術革新等の社会の変化に対応し、患者本位の医療を提案する。

観点		4 (キャップストーン)	3	2	1 (ベンチマーク)
A	薬学的知見に基づいた医療の提案	科学的な思考、及び医療倫理と使命感を背景とする薬学的知見に基づいた患者本位の医療を提案する。	科学的な思考、及び医療倫理と使命感を背景とする薬学的知見に基づいた患者本位の医療について理解する。	科学的な思考、及び医療倫理と使命感を理解する。	医療倫理と使命感を理解する。
B	社会変化に対応した医療の提案	医療政策や医療経済を考慮し、社会の変化に対応した患者本位の医療を提案する。	医療政策や医療経済を考慮し、社会の変化に対応した患者本位の医療について理解する。	医療政策や医療経済を理解する。	少子高齢化や技術革新等の社会の変化を理解する。

DP 2. 地域との連携と貢献

地域に貢献できる薬の専門家の役割を理解し、患者・生活者とそれらを支える専門職との円滑な意思疎通と信頼関係構築する基本的能力を有する。

観点		4 (キャップストーン)	3	2	1 (ベンチマーク)
A	地域との信頼関係	地域における患者・生活者及びそれらを支える専門職と円滑に意思疎通ができ、信頼関係を構築する基本的能力を有する。	専門職と円滑に意思疎通ができ、信頼関係を構築する基本的能力を有する。	意思疎通及び信頼関係構築に必要な基本的能力を有する。	地域に貢献できる薬の専門家の役割を理解する。

DP 3. 福祉向上のための支援

人に対して効果を有する化学物質（医薬品、医薬部外品及び化粧品等）の性質並びに法規制を考慮し、人々の福祉のためのセルフケアを提案する能力を有する。

観点		4 (キャップストーン)	3	2	1 (ベンチマーク)
A	医薬品の性質並びに法規制を考慮したセルフケアの提案	医薬品の性質並びに法規制を考慮した、福祉のためのセルフケアを提案する。	医薬品の性質並びに法規制を考慮した、福祉のためのセルフケアについての知識を有する。	医薬品の性質、法規制、並びに福祉に関する知識を有する。	医薬品の法規制、並びに福祉に関する知識を有する。
B	医薬部外品及び化粧品等の性質並びに法規制を考慮した、福祉のためのセルフケアの提案	医薬部外品及び化粧品等の性質並びに法規制を考慮した、福祉のためのセルフケアを提案する。	医薬部外品及び化粧品等の性質並びに法規制を考慮した、福祉のためのセルフケアについての知識を有する。	医薬部外品及び化粧品等の性質、法規制、並びに福祉に関する知識を有する。	医薬部外品及び化粧品等の法規制、並びに福祉に関する知識を有する。

DP 4. 高度な専門知識の修得

広く自然科学の知識を備え、高度な薬学の知識を体系的に身につける。

観点		4 (キャップストーン)	3	2	1 (ベンチマーク)
A	基礎薬学系の知識の修得	高度な基礎薬学系の知識を身につける。	基礎薬学系の知識を身につける。		広く自然科学の知識を身につける。
B	衛生・社会薬学系の知識の修得	高度な衛生・社会薬学系の知識を身につける。	衛生・社会薬学系の知識を身につける。		広く自然科学の知識を身につける。
C	医療薬学系の知識の修得	高度な医療薬学系の知識を身につける。	医療薬学系の知識を身につける。		広く自然科学の知識を身につける。

DP 5. 知の探求

薬学における最新の知見を通じて課題を自ら見出し、科学的思考に基づいた解決策を模索する。

観点		4 (キャップストーン)	3	2	1 (ベンチマーク)
A	課題の抽出と解決	自ら見出した課題について科学的思考に基づいた解決策を模索する。	最新の知見をもとに課題を自ら見出す。	最新の知見を把握する。	科学的思考をするための基本的能力を有する。

DP 6. 鍛錬と継承

社会に貢献できるように、生涯にわたり知識と技術を磨き、次世代を担う人材を育成する意欲と行動力を有する。

観点		4 (キャップストーン)	3	2	1 (ベンチマーク)
A	自己研鑽	知識と技術を向上させる意欲と行動力を有する。	知識と技術を向上させる意欲を有する。		知識と技術を向上させる基本的能力を有する。
B	人材育成	人材を育成する意欲と行動力を有する。	人材を育成する意欲を有する。		人材を育成する基本的能力を有する。

DP 7. 危機管理能力の活用

薬学的知見を背景としたクライシスマネジメント能力に基づき、多職種と連携しながら多様な状況に対応する。

観点		4 (キャップストーン)	3	2	1 (ベンチマーク)
A	クライシスマネジメント能力を活用した多職種連携	薬学的知見を背景としたクライシスマネジメント能力に基づき、多職種と連携しながら多様な状況に対応する。	薬学的知見を背景としたクライシスマネジメント能力に基づき、多職種と連携する。	薬学的知見を背景としたクライシスマネジメント能力を有する。	リスクマネジメントに関する基本的な知識を有する。